

科目名	人文科学2		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	九州大谷短期大学教授				
一般目標(GIO)					
柔道整復師として医学の場に立つ者の知識と共に患者に対応する心を学ぶ。 患者と話が出来、心を思いやることの出来る柔道整復師の訓練をする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	2	医学用語の知識1	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
2		16	2	医学用語の知識2	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
3	5	7	2	医学用語の知識3	よみ方辞典を用いて医学用語を説明できる。
4		14	2	履歴書の書き方	履歴書の書き方を説明できる。
5		21	2	時事問題を聞く1	新聞の読み方を説明できる。
6		28	2	時事問題を聞く2	新聞の読み方を説明できる。
7	6	4	2	読解力の訓練1	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
8		18	2	読解力の訓練2	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
9		25	2	読解力の訓練3	評論文を参考に小論文の書き方を説明できる。
10	7	2	2	想像力の発展	患者との対話術、患者の心のケアの仕方について説明できる。
11		9	2	語学力の訓練	語学力の手法を説明できる。
12		16	2	レポートの書き方	レポートの書き方・手法を説明できる。
13		23	2	論文の書き方	論文作成の方法および規定について説明できる。
14		30	2	表現力の発展	読書により多くの表現方法を説明できる。
15	8	6	2	まとめ	本講義をまとめ評価できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	70%		配布プリント		
平常点	30%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	心理学		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	電機・航空会社・商社勤務経験を有し人事・労務で培った教員が心理学の授業を担当する				
一般目標(GIO)					
現代コミュニケーション学を根拠や理論に基づき他者との関わりを修得するために必要な要素である目的や手段を知り更には心理学見地により双方向の人間関係スキルを身につける					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	3	コミュニケーションとは	コミュニケーションの在り方と心構えを述べることができる
2	4	16	3	コミュニケーションの手段	言葉を媒介しないコミュニケーションの意味を説明できる
3	5	7	3	コミュニケーションの手段	声、発音、発声、コミュニケーション用語を知り訓練する
4	5	14	3	コミュニケーションの構成要素①	コミュニケーションの伝達経路について説明できる
5	5	21	3	コミュニケーションの構成要素②	自己主張の重要性と主張の仕方について説明できる
6	5	28	3	コミュニケーションの阻害因子	聴く力・表現する力・関わる力を関係づけることができる
7	6	4	3	コミュニケーション避けたいABC	整復師の現場で相手の生かし方について推論する
8	6	18	3	コミュニケーションセンスと表現	敬語を使う対象と使い方・原則分類を述べるができる
9	6	25	3	コミュニケーションの総仕上げ	心の4つの窓の理解し開放領域の広げ方を説明できる
10	7	2	3	ロールプレイング心理学見地①	整復師の現場内で患者との行動行為のセンスを高める
11	7	9	3	ロールプレイング心理学見地②	整復師の現場で患者の不安を受けとめ適用する
12	7	16	3	ロールプレイング心理学見地①	整復師と患者の行動場面を再構成し応用する
13	7	23	3	ロールプレイング心理学見地②	患者との関わりと全てのプロセスを説明できる
14	7	30	3	ロールプレイング心理学見地③	患者との関わりと取り組み方を列記することができる
15	8	6	3	まとめ	コミュニケーションについて総合的に整理できる
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	50%	仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版株式会社		シート:使用	
実技試験	30%			プリント:使用	
レポート課題等	20%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	社会科学			学年	2 年 10 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験					
一般目標 (GIO)					
<p>ヒトが集団生活を営む都市の出現(社会の誕生)と感染症の流行は密接な関係がある。つまりペストの大流行などを経て微生物学が確立され、まず予防のための「法」が制定され、社会に必要な種々の法律が誕生した。この微生物の具体的な特徴とその病気を理解し、その個人レベルの予防対策や国家レベルの対策としての感染症法の詳細を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	1	微生物学の確立	感染症という概念の理解のため、自然発生説の否定とコッホの条件が前提であることを説明できる。
2	10	9	1	感染と発症	感染成立の要件と種々の感染様式を説明できる。
3	10	16	1	感染と免疫	免疫の基本概念を具体的に説明し、その反応過剰の現象としてのアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。
4	10	23	1	細菌の特徴	細菌はグラム染色や丸か四角かの形態で分類されることやその病原性の機構を説明できる。
5	11	6	1	グラム陽性菌の病原性	グラム染色で陽性を示す代表的な細菌の起こす病気の概要を説明できる。
6	11	13	1	グラム陰性菌の病原性	グラム染色で陰性を示す代表的な細菌、日和見感染や性感染症などの細菌が起こす病気の概要を説明できる。
7	12	4	1	その他の細菌の病原性	ワクチン関連及び抗酸菌の病原性の概略やかかった細菌の病気や性状を説明できる。
8	12	11	1	ウイルスの特徴	ウイルスの基本構造及び分類とその病気の特徴を説明できる。
9	12	25	1	DNAウイルスの病原性	主なDNAウイルスによる病気の特徴を説明できる。
10	1	8	1	RNAウイルスの病原性	主なRNAウイルスによる病気の特徴を説明できる。
11	1	15	1	特殊なウイルスの病原性	媒介昆虫を必要とするもの、致死的な経過をたどるもの、免疫でのものが攻撃対象となるなどの種々のウイルス病を説明する事ができる。
12	1	22	1	前回続き及び真菌、寄生虫感染症	種々の肝炎ウイルスの引き起こす病気やプリオン病などを解説できる。またカビや寄生虫の引き起こす病気を説明する事ができる。
13	1	29	1	感染症の治療	微生物や寄生虫を殺す薬とそれらの作用、副作用などを解説できる。
14	2	5	1	感染症対策1	感染症の個人的な対策としての消毒法の基本を説明でき、国家対策としての感染症法の組み立てや内容の詳細を説明できる。
15	2	12	1	感染症対策2	高齢者を襲う院内感染と病院スタッフがかかるべき対策法としての標準予防策を説明でき、究極の対策としての予防接種の概要を説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	90%			コンパクト微生物学第4版(南江堂)	病気が見える6免疫・膠原病・感染症(MEDIC MEDIA)
出席	10%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	運動学2			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院勤務経験有り。西九州大学リハビリテーション学科教授。				
一般目標(GIO)					
人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、 正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。 身体構造の基礎知識を使用して、身体の運動のメカニズムを理解することが目標である。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	2	上肢帯の運動	上肢帯の構造とその運動メカニズムを説明できる
2	4	19	2	肩関節の運動	肩関節の構造と運動メカニズムを説明できる
3	4	26	2	肘関節と前腕の運動	肘・前腕の構造と運動メカニズムを説明できる
4	5	10	2	手関節と手の運動	手関節・手の構造と運動メカニズムを説明できる
5	5	17	2	股関節の運動	股関節の構造と運動メカニズムを説明できる
6	5	24	2	膝関節の運動	膝関節の構造と運動メカニズムを説明できる
7	5	31	2	足関節と足部の運動	足関節・足部の構造と運動メカニズムを説明できる
8	5	14	2	前半部分のまとめ	四肢の構造と運動メカニズムを関係づけられる
9	5	21	2	体幹と脊柱の運動	体幹の構造と運動メカニズムを説明できる
10	6	5	2	胸郭の運動	胸郭の構造と運動メカニズムを説明できる
11	6	12	2	顔面及び頭部の運動	顔・頭部の構造と運動メカニズムを説明できる
12	6	19	2	姿勢/歩行	姿勢と歩行の運動メカニズムを説明できる
13	7	26	2	運動発達	運動発達の流れを理解できる
14	8	2	2	運動学習	運動学種の理論を説明できる
15	8	9	2	総まとめ	各関節の運動メカニズムを関連付けられる
評価基準			教科書		参考書
小テスト	50%	斉藤宏・鴨下博著			
定期考査	50%	「運動学」医歯薬出版株式会社			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論1			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。				
一般目標(GIO)					
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	3	呼吸器疾患1	かぜ症候群、肺炎、結核などを説明する事ができる。
2		19	3	呼吸器疾患2	気管支喘息、COPD、肺癌を説明する事ができる。
3		26	3	呼吸器疾患3	肺血栓塞栓症、気胸を説明する事ができる。
4	5	10	3	循環器疾患1	心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症などを説明する事ができる。
5		17	3	循環器疾患2	先天性疾患、高血圧などを説明できる。
6		24	3	循環器疾患3	閉塞性動脈硬化症、不整脈などを説明できる。
7		31	3	消化器疾患1	上部消化器疾患を説明する事ができる。
8	6	14	3	消化器疾患2	下部消化器疾患を説明する事ができる。
9		21	3	消化器疾患3	肝疾患を説明する事ができる。
10	7	5	3	消化器疾患4	胆膵腹膜疾患を説明する事ができる。
11		12	3	代謝疾患1	糖尿病を説明する事ができる。
12		19	3	代謝疾患2	脂質異常症を説明する事ができる。
13		26	3	代謝疾患3	肥満症、メタボリックシンドローム、痛風を説明する事ができる。
14	8	2	3	内分泌疾患1	内分泌の総論を述べる事ができる。
15		9	3	内分泌疾患2	下垂体疾患、甲状腺疾患などを説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	リハビリテーション医学2			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院のリハビリテーション科での勤務経験有.大学のリハビリテーション学科に勤務				
一般目標(GIO)					
日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。そのため、まず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	17	3	リハビリテーションの治療 C補装具	補装具について説明できる。
2		24	3	リハビリテーションの治療 D言語治療	言語治療について説明できる。
3	5	8	3	関連職種	リハビリテーション関連職種について説明できる。
4		15	3	リハビリテーションの実際 A脳卒中	脳卒中について説明できる。
5		22	3	リハビリテーションの実際 B脊髄損傷	脊髄損傷について説明できる。
6		29	3	リハビリテーションの実際 C小児疾患	小児疾患について説明できる。
7	6	5	3	リハビリテーションの実際 D切断	切断について説明できる。
8		19	3	リハビリテーションの実際 E末梢神経疾患	末梢神経疾患について説明できる。
9		26	3	リハビリテーションの実際 F関節リウマチ	関節リウマチについて説明できる。
10	7	3	3	リハビリテーションの実際 G整形疾患	整形疾患について説明できる。
11		10	3	リハビリテーションの実際 H心疾患	心疾患について説明できる。
12		17	3	リハビリテーションの実際 I呼吸器疾患	呼吸器疾患について説明できる。
13		24	3	リハビリテーションの実際 J老人	老人のリハビリテーションについて説明できる。
14		31	3	リハビリテーションと福祉	リハビリテーションと福祉について説明できる。
15	8	7	3	まとめ	履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	整形外科学		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	臨床整形外科医として医療の第一線を担う教員が患者の受診時状況やその疾患と整形外科領域での現状や課題について解説する。				
一般目標(GIO)					
整形外科学において臨床疾患を知識として修得する。 運動器疾患についての診察法や検査法を深く理解する。また、幅広い運動器疾患についても理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	1	運動器の基礎知識	正常運動器の役割を説明できる。
2	4	18	1	整形外科診察法	適切な診察法を説明できる。
3	4	25	1	整形外科検査法	適切な検査法を説明できる。
4	5	9	1	整形外科治療法	診察法・検査法から治療法を関係づける。
5	5	16	1	骨・関節損傷 総論	比較・分類し損傷を識別できる。
6	5	23	1	スポーツ整形外科 総論	スポーツ外傷・障害について類別し判断できる。
7	5	30	1	疾患別 各論①	感染性・非感染性について説明できる。
8	6	13	1	疾患別 各論②	全身の骨・軟部疾患について分類できる。
9	6	20	1	疾患別 各論③	神経麻痺と絞扼性神経障害の説明ができる。
10	6	27	1	身体部位別 各論①	体幹について説明できる。
11	7	4	1	身体部位別 各論②	肩甲帯及び上肢の疾患を説明できる。
12	7	11	1	身体部位別 各論③	肩甲帯及び上肢の疾患を評価できる。
13	7	18	1	身体部位別 各論④	骨盤及び下肢の疾患を説明できる。
14	8	1	1	身体部位別 各論⑤	骨盤及び下肢の疾患を評価できる。
15	8	8	1	まとめ	前期授業全体について復習し記述できる。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	整形外科学			
	%	改訂第4版 南江堂			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	医学史1		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30h・15		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)					
柔道整復師の養成課程において、柔道の理念を理解し、また、行動に移すための素地を技の習得過程を通して身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	1	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。
2		19	1	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。
3		26	1	姿勢・組み方、歩み方崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。
4	5	10	1	姿勢・組み方、歩み方崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。
5		17	1	足技と足技に対する受身-導入-	受の姿勢が低い状態で、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
6		24	1	足技と足技に対する受身-導入-	受の姿勢が低い状態で、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
7		31	1	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
8	6	14	1	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
9		21	1	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
10	7	5	1	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
11		12	1	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
12		19	1	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
13		26	1	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。
14	8	2	1	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。
15		9	1	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%				柔道整復師と機能訓練指導 (機能訓練指導員養成テキスト)
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:35~11:20)

3限目(11:25~12:55)



科目名	臨床医学各論2			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。				
一般目標(GIO)					
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	3	内分泌疾患3	副甲状腺疾患、副腎疾患などを説明する事ができる。
2		11	3	血液・造血器疾患1	貧血疾患、白血病などを説明する事ができる。
3		18	3	血液・造血器疾患2	悪性リンパ腫、紫斑病、骨髄腫などを説明する事ができる。
4		25	3	腎・尿路疾患1	腎不全、慢性腎臓病などを説明する事ができる。
5	11	8	3	腎・尿路疾患2	透析療法、腎移植を説明する事ができる。
6		15	3	腎・尿路疾患3	腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱炎などを説明できる。
7		29	3	腎・尿路疾患4	嚢胞腎、前立腺肥大症、尿路結石などを説明できる。
8	12	6	3	神経疾患1	脳血管障害、てんかん、片頭痛などを説明する事ができる。
9		13	3	神経疾患2	認知症、パーキンソン病、ALSなどを説明する事ができる。
10		27	3	感染症1	感染経路、日和見感染予防策などを説明する事ができる。
11	1	10	3	感染症2	腸管、皮膚、性行為感染症などを説明する事ができる。
12		17	3	感染症3	破傷風、ウイルス感染症を説明する事ができる。
13		31	3	リウマチ・膠原病1	関節リウマチ、SLE、強皮症などを説明する事ができる。
14	2	7	3	アレルギー・膠原病2	上記以外の膠原病、アナフィラキシーショックなどを説明する事ができる。
15		14	3	環境要因による疾患	熱中症、一酸化炭素中毒を説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学		国家試験過去問題集	
	%	(全国柔道整復学校協会監修)		柔道整復師用	
	%			(医道の日本社発行)	
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	外科学概論1			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	福岡歯科大学病院にて臨床経験30年 福岡歯科大学、福岡医療短期大学での教育経験30年				
一般目標(GIO)					
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を知る。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	3	2	損傷①	損傷と創傷について説明できる。
2		10	2	損傷②	熱傷の原因や深度による分類、合併症を述べる事ができる。
3		17	2	炎症と外科感染症①	定義と分類について説明する。外科感染症について述べる事ができる。
4		24	2	腫瘍①	概念および良性・悪性腫瘍の特徴について説明できる。
5	11	7	2	腫瘍②	腫瘍の発育形式、診断方法、治療法について述べる事ができる。
6		14	2	ショック①	定義と分類について説明する。またショックの緊急処置について述べる事ができる。
7		28	2	輸血,輸液①	輸血の基礎知識を説明し、輸血の実際・副作用について述べる事ができる。
8	12	5	2	輸血,輸液②	一般輸血について説明できる。
9		12	2	消毒と滅菌①	消毒薬の特徴を説明し、滅菌の種類について述べる事ができる。
10	1	9	2	手術①	各種手術法の種類および適用について述べる事ができる。
11		16	2	麻酔①	麻酔の種類を説明し、それぞれの特徴を述べる事ができる。
12		23	2	移植と免疫①	移植の用語と要点を述べる事ができる。
13		30	2	出血と止血①	出血の種類と特徴を説明し止血法を理解する事ができる。
14	2	6	2	心肺蘇生法①	心肺蘇生法の定義を説明し、手順を説明できる。
15		13	2	外科学概論1まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版			
	%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	外科学概論2			学年	2 年 10 期生
担当者				期 別	後期
単位数	1 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験					
一般目標(GIO)					
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	3	1	脳神経外科疾患①	脳神経疾患の主要徴候と病態を説明できる。
2		10	1	脳神経外科疾患②	意識障害の分類について述べる事ができる。
3		17	1	脳神経外科疾患③	脳血管障害および頭部外傷について説明する事ができる。
4		24	1	甲状腺・頸部疾患①	甲状腺機能亢進症および甲状腺腫瘍について述べる事できる。
5	11	7	1	胸壁・呼吸器疾患①	胸壁・呼吸器疾患の症候と検査について説明できる。
6		14	1	胸壁・呼吸器疾患②	胸膜疾患・縦隔疾患等について説明できる。
7		28	1	胸壁・呼吸器疾患③	胸部損傷について説明できる。
8	12	5	1	心臓・脈管疾患①	心臓・血管系疾患に対する検査法を説明できる。
9		12	1	心臓・脈管疾患②	心疾患の特徴について対比できる。
10	1	9	1	心臓・脈管疾患③	脈管疾患について述べる事ができる。
11		16	1	乳腺疾患①	診断方法について説明でき、乳腺疾患の種類を述べる事ができる。
12		23	1	腹部外科疾患①	症状と検査について説明できる。
13		30	1	腹部外科疾患②	代表的腹部外科疾患について述べる事ができる。
14	2	6	1	腹部外科疾患③	腹部外傷について説明できる。
15		13	1	外科学概論2まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版			
	%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	医学史1		学年	2年10期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30h・15		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)					
柔道整復師の養成課程において、柔道の理念を理解し、 また、行動に移すための素地を技の習得過程を通して身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	2	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに用い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
2		11	2	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに用い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
3		18	2	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに用い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
4		25	2	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに用い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
5	11	8	2	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに用い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
6		15	2	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに用い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
7		29	2	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに用い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
8	12	6	2	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに用い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
9		13	2	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに用い、支釣込足で投げることができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。
10		27	2	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
11	1	10	2	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
12		17	2	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。
13		31	2	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。
14	2	7	2	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。
15		14	2	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%			柔道整復師と機能訓練指導 (機能訓練指導員養成テキスト)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:35~11:20)

3限目(11:25~12:55)

科目名	外傷の保存療法		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間×8回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)					
外傷性疾患の治癒機序を理解し、柔道整復師として外傷性疾患への対応方法を理解し、また、外傷の経過及び治療判断に関して考察できる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	2	人体の治癒機序-1-	外胚葉由来の治癒機序について説明できる。
2		18	2	人体の治癒機序-2-	外胚葉由来の治癒機序から中胚葉由来の治癒機序を関係づけできる。
3		25	2	Colles骨折の保存療法	概要を理解し、人体の治癒機序を応用する事ができる。
4	5	9	2	足関節外側靭帯損傷の保存療法	概要を理解し、人体の治癒機序を応用する事ができる。
5		16	2	Colles骨折の保存療法の実際	実際の保存療法をキャストを用いて固定する事ができる。
6		23	2	足関節外側靭帯損傷の保存療法の実際	実際の保存療法をブライトンを用いて固定する事ができる。
7		30	2	外傷の保存療法まとめ	その他外傷性疾患について述べる事ができる。
8	6	13	2	外傷の保存療法まとめ	その他外傷性疾患について述べる事ができる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・実技編(改訂第2版)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床柔道整復学1		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、鎖骨部、肩関節の機能と解剖を踏まえた上で、骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	3	鎖骨部の機能と解剖	鎖骨の機能や神経や筋を図示し、説明できる。
2		15	3	鎖骨骨折①	発生機序、症状、合併症、整復法、固定法を図示し、説明をできる。
3		22	3	胸鎖関節脱臼	分類、発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
4	5	13	3	肩鎖関節上方脱臼	分類、発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
5		20	3	肩関節部の機能と解剖	肩関節の機能や神経や筋を図示し、説明をできる。
6		27	3	肩甲骨骨体部および上角・下角骨折	発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
7	6	3	3	関節窩骨折、頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折	発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
8		17	3	結節上骨折(骨頭・解剖頸骨折) 結節下骨折(大・小結節単独骨折、骨端線離開)	発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
9		24	3	上腕骨外科頸骨折①	発生機序、症状、合併症、鑑別、整復法、固定法を図示し、説明できる。
10	7	1	3	肩関節脱臼①(前方)	発生機序、症状、合併症、鑑別、整復法、固定法を図示し、説明できる。
11		8	3	肩関節脱臼②(後方・下方・上方)	発生機序、症状、整復法、固定法を図示し、説明できる。
12		22	3	反復性肩関節脱臼	発生機序、症状を図示し、説明できる。
13		29	3	腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷	発生機序、症状、検査を図示し、説明できる。
14	8	5	3	スポーツ損傷による軟部組織損傷	発生機序、症状、検査を図示し、説明できる。
15		19	3	不安定症、末梢神経障害、その他疾患	発生機序、症状、検査を図示し、説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床柔道整復学2			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	専科教員免許取得5年、接骨院開業1年。				
一般目標(GIO)					
本科目は、柔道整復師としての最低限の理論と柔道整復師国家試験に合格するために必要な知識を身につける					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	1	上腕部の損傷	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
2	4	17	1	上腕部の損傷	軟部組織損傷について説明できる。
3	4	24	1	肘関節部の損傷	解剖と機能について説明できる。
4	5	8	1	肘関節部の損傷	上腕骨遠位部の骨折について説明できる。
5	5	15	1	肘関節部の損傷	上腕骨遠位部の骨折について説明できる。
6	5	22	1	肘関節部の損傷	前腕骨近位部の骨折について説明できる。
7	6	5	1	肘関節部の損傷	肘関節の脱臼について説明できる。
8	6	19	1	肘関節部の損傷	肘内障について説明できる。
9	6	26	1	肘関節部の損傷	肘関節部の軟部組織損傷について説明できる。
10	7	3	1	前腕部の損傷	解剖と機能について説明できる。
11	7	10	1	前腕部の損傷	前腕骨骨幹部骨折について説明できる。
12	7	17	1	前腕部の損傷	前腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13	7	24	1	前腕部の損傷	前腕骨骨幹部骨折について説明できる。
14	7	31	1	前腕部の損傷	前腕部の軟部組織損傷について説明できる。
15	8	7	1	前腕部の損傷	前腕部の軟部組織損傷について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%		柔道整復学・理論編(南江堂)		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床柔道整復学3		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、手関節部、手・指部の機能と解剖を踏まえた上で、骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	2	手関節部の機能と解剖	手関節部の機能や神経や筋を図示し、説明できる。
2		17	2	コーレス骨折	発生機序、症状、合併症、整復法、固定法を図示し、説明できる。
3		24	2	スミス骨折、バートン骨折	発生機序、症状、合併症、整復法、固定法を図示し、説明できる。
4	5	8	2	ショウファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開	発生機序、症状、合併症、整復法、固定法を図示し、説明できる。
5		15	2	舟状骨骨折	発生機序、症状、合併症、整復法、固定法を図示し、説明できる。
6		22	2	その他手根骨骨折	股関節に関与する筋が触診できる。
7	6	5	2	手関節部の脱臼	膝関節に関与する筋が触診できる。
8		19	2	手関節部の軟部組織損傷	膝関節および足関節に関与する筋が触診できる。
9		26	2	手・指部の機能と解剖	足関節に関与する筋が触診できる。
10	7	3	2	中手骨部の骨折	下肢に関する筋が触診できる。
11		10	2	ベネット骨折、CM関節脱臼	スカルパ三角に関与する筋、脈管、神経が触診できる。
12		17	2	指骨の骨折	内側・外側側副靭帯の触診ができ、ストレステストが修得できる。
13		24	2	中手指節関節、指節関節の脱臼	腸脛靭帯が触診でき、overテストも修得できる。
14		31	2	手・指部の軟部組織損傷(腱・靭帯の損傷)	三角靭帯、外側靭帯、二分靭帯が触診できる。
15	8	7	2	手・指部の軟部組織損傷(その他の変性疾患および変形)	下肢に関する靭帯の触診が触診できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)



科目名	臨床柔道整復学6		学年	2年10期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学6において臨床上起こりうる事象と照合し実際の患者像の現状や課題について解説する。				
一般目標(GIO)					
臨床柔道整復学6において体幹の損傷の臨床的特徴でもある症状不明瞭なものに対応できるように教科書を用いて理解し判断する能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	2	胸・背部の解剖と機能	胸部と背部の関連性も含めて説明できる。
2	4	16	2	胸部の骨折①	肋骨骨折について説明できる。
3	5	7	2	胸部の骨折②	胸骨骨折について説明できる。
4	5	14	2	胸部の骨折③	胸椎骨折について治療法も含めて説明できる。
5	5	21	2	胸椎の脱臼	胸椎部と移行部と分類し説明できる。
6	5	28	2	胸・背部の軟部組織損傷	筋・関節と打撲について説明できる。
7	6	4	2	腰部・仙骨部の解剖と機能	動作時の関連した動きも含めて説明できる。
8	6	18	2	腰椎の骨折①	項目別に特徴を押さえながら説明できる。
9	6	25	2	腰痛の骨折②	治療法・合併症について説明できる。
10	7	2	2	腰椎の脱臼	特徴について説明できる。
11	7	9	2	腰部の軟部組織損傷①	関節損傷について説明できる。
12	7	16	2	腰部の軟部組織損傷②	靭帯損傷について説明できる。
13	7	23	2	腰部の軟部組織損傷③	筋損傷について説明できる。
14	7	30	2	腰部の軟部組織損傷④	治療法・合併症について説明できる。
15	8	6	2	1～14回までの復習	講義内容を再認識したか確認し学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%		柔道整復学・理論編		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	高齢者の外傷予防		学年	2 年 10 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間×8回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)					
高齢者の外傷と機能訓練との関連について理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	6	13	2	2.発達と老化の理解	老年期の特徴を説明する事ができる。
2		20	2	2.発達と老化の理解	高齢者にみられる疾患を述べる事ができる。
3		27	2	9.ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの概念を説明する事ができる。
4	7	4	2	11.機能訓練指導員と機能訓練	機能訓練指導員と機能訓練について説明する事ができる。
5		11	2	11.機能訓練指導員と機能訓練	機能訓練指導員の保持すべき知識・能力を説明する事ができる。
6		18	2	12.機能訓練で提供する運動と要点	機能訓練の手順を述べる事ができる。
7	8	1	2	12.機能訓練で提供する運動と要点	器具を用いない運動を説明する事ができる。
8		8	2	12.機能訓練で提供する運動と要点	簡単な器具を用いて行う運動を説明する事ができる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復師と機能訓練指導(機能訓練指導員養成テキスト)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用5			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	整形外科勤務 柔道整復師専科教員取得 非常勤講師3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、上肢の脱臼において、実際に経験した際に落ち着いて対応出来るようにするため、基礎的な解剖の理解及び整復の方法・手順を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	1	肩鎖関節の解剖	肩鎖関節周辺の解剖・構造が説明できる。
2	4	15	1	肩鎖関節脱臼整復	肩鎖関節脱臼の整復動作を実演し、実践することができる。
3	4	22	1	肩鎖関節脱臼整復	肩鎖関節脱臼の整復動作を高精度に実践することができる。
4	5	13	1	肩関節の解剖	肩関節周辺の解剖・構造が説明できる。
5	5	20	1	肩関節烏口下脱臼整復	肩関節烏口下脱臼の整復動作を実演し、実践できる。
6	5	27	1	肩関節烏口下脱臼整復	肩関節烏口下脱臼の整復動作を高精度に実践することができる。
7	6	3	1	整復動作の復習	整復動作を再確認し、細かな部分まで指摘できる。
8	6	17	1	肘関節の解剖	肘関節周辺の解剖・構造が説明できる。
9	6	24	1	肘関節脱臼整復	肘関節脱臼の整復動作を実演し、実践できる。
10	7	1	1	肘関節脱臼整復	肘関節脱臼の整復動作を高精度に実践することができる。
11	7	8	1	小児上肢疾患	小児における上肢の外傷が説明できる。
12	7	22	1	肘内障整復	肘内障の整復動作を実演し、実践できる。
13	7	29	1	肘内障整復	肘内障の整復動作を高精度に実践することができる。
14	8	5	1	整復動作の復習	履修した整復動作がより高精度に実践できる。
15	8	19	1	整復動作の復習	履修した整復動作がより高精度に実践できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%			柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%			柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用6			学年	2年10期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	整形外科勤務 柔道整復師専科教員取得 非常勤講師3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、上肢の脱臼において、基礎的な固定方法に加え、 臨床でも使用することが出来る固定の手順・方法を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	2	肩鎖関節の解剖	肩鎖関節周辺の解剖・構造が説明できる。
2	4	15	2	肩鎖関節脱臼固定	固定具が作成できる。
3	4	22	2	肩鎖関節脱臼固定	肩鎖関節脱臼の固定を実演し、実践できる。
4	5	13	2	肩関節の解剖	肩関節周辺の解剖・構造が説明できる。
5	5	20	2	肩関節前方脱臼固定	固定具が作成できる。
6	5	27	2	肩関節前方脱臼固定	肩関節前方脱臼の固定を実演し、実践できる。
7	6	3	2	固定動作の復習	固定動作を再確認し、細かな部分まで指摘できる。
8	6	17	2	肘関節の解剖	肘関節周辺の解剖・構造が説明できる。
9	6	24	2	肘関節後方脱臼固定	固定具が作成できる。
10	7	1	2	肘関節後方脱臼固定	肘関節後方脱臼の固定を実演し、実践できる。
11	7	8	2	指節間関節の解剖	指節間関節周辺の解剖・構造が説明できる。
12	7	22	2	手指PIP関節背側脱臼固定	固定具が作成できる。
13	7	29	2	手指PIP関節背側脱臼固定	手指PIP関節背側脱臼の固定を実演し、実践できる。
14	8	5	2	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。
15	8	19	2	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%			柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%			柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用 7			学年	2 年 10 期生
担当者				期別	前期
単位数	単位			講義・実習	実習
時間数・授業回数	30 時間			専任・兼任	専任
実務経験	整形外科勤務 1 年 開業経験 5 年 教員経験 3 年				
一般目標 (GIO)					
本科目は、臨床実習時に必要と判断される医療面接(OSCE)、関節運動の理解と ROM 測定の実践能力を安全・的確に修得(実施)するために、その修得に必要な要素である各関節の機能解剖また実習の際の心得(身だしなみ、言葉使い、守秘義務)の知識・手順を習得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	3	OSCE 説明、レポートの書き方	臨床実習前訓練としての OSCE の概念と内容を述べることができる。
2	4	18	3	主訴・家族歴などについて	主訴・現病歴・既往歴・家族歴・社会歴の聴取について説明することができる。
3	4	25	3	肩関節の関節運動の理解	肩関節の機能について図示し、説明することができる。
4	5	9	3	肩関節の ROM 測定	肩関節の可動域を評価できる。
5	5	16	3	肘関節の関節運動の理解	肘関節の機能について図示し、説明できる。
6	5	23	3	肘関節の ROM 測定	肘関節の可動域を評価できる。
7	5	30	3	手関節の関節運動の理解	手関節の機能について図示し、説明できる。
8	6	13	3	手関節の ROM 測定	手関節の可動域を評価できる。
9	6	20	3	股関節の関節運動の理解	股関節の機能について図示し、説明できる。
10	6	27	3	股関節の ROM 測定	股関節の可動域を評価できる。
11	7	4	3	膝関節の関節運動の理解	膝関節の機能について図示し、説明できる。
12	7	11	3	膝関節の ROM 測定	膝関節の可動域を評価できる。
13	7	18	3	足関節の関節運動の理解・ROM 測定	足関節の機能について図示し、説明する。足関節の可動域を評価できる。
14	8	1	3	総復習	
15	8	8	3	総復習	
評価基準			教科書		参考書
レポート	20%				柔道整復師 臨床(地)実習ガイドライン 理学療法臨床実習サポートブック(医学書院)
実技試験	80%				
	%				
	%				

科目名	臨床柔道整復学7			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	整形外科勤務 柔道整復師専科教員取得 非常勤講師3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、患者に正確な知識・根拠に基づいた対応を出来るようにするために、骨盤から大腿部における損傷の知識を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	1	骨盤の解剖	骨盤の解剖が説明でき、疾患に興味を持つ。
2	10	8	1	骨盤骨単独骨折	骨盤骨単独骨折が分類でき説明できる。
3	10	15	1	骨盤輪骨折	骨盤輪骨折の合併症が説明できる。
4	11	5	1	股関節の解剖・機能	股関節の解剖・機能が説明でき、疾患に興味を持つ。
5	11	12	1	大腿近位部の骨折	股関節近位部骨折の分類ができ、説明できる。
6	11	26	1	大腿骨頸部骨折	大腿骨頸部骨折の概要が説明できる。
7	12	3	1	中間テスト対策	中間試験に向け、履修内容を整理する。
8	12	10	1	大腿骨近位部の骨折	頸部骨折の分類が説明できる。
9	12	24	1	股関節脱臼	股関節脱臼の概要が説明できる。
10	1	7	1	股関節脱臼	股関節脱臼の分類、治療法が説明できる。
11	1	14	1	股関節軟部組織損傷	軟部組織損傷の概要が説明できる。
12	1	21	1	注意すべき股関節疾患	注意すべき股関節疾患の要点が説明できる。
13	1	28	1	大腿部の解剖・骨折	大腿部の解剖、骨折が説明できる。
14	2	4	1	大腿部の軟部組織損傷	肉離れの要点が説明できる。
15	2	18	1	期末テスト対策	期末試験に向け、履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編		プロメテウス解剖学 標準整形外科	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床柔道整復学8			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	専任
実務経験	柔道整復師免許取得15年、専任教員7年				
一般目標(GIO)					
柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、膝関節部、下腿部の機能と解剖を踏まえた上で、骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	1	膝関節部の機能と解剖	手関節部の機能や神経や筋を図示し、説明できる。
2	10	7	1	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位端線離開	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
3		21	1	大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
4		28	1	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
5	11	11	1	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
6		25	1	膝関節の脱臼、膝蓋骨の骨折および脱臼	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
7	12	2	1	半月板損傷、靭帯損傷	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
8		9	1	発育期の膝関節障害	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
9		16	1	腸脛靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
10		23	1	膝周囲の関節包、滑液包の異常、神経の障害、中高年期にみ	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
11	1	6	1	下腿部の機能と解剖	下腿部の機能や神経や筋を図示し、説明できる。
12		20	1	脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折	分類、発生機序、症状、整復法、合併症、治療法を図示し、説明できる。
13		27	1	下腿骨幹部骨折、下腿骨疲労骨折	分類、発生機序、症状、合併症、治療法を図示し、説明できる。
14	2	3	1	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎	発生機序、症状、治療法を図示し、説明できる。
15		10	1	下腿部のスポーツ障害	発生機序、症状、治療法を図示し、説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%	解剖学			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床柔道整復学10			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	整形外科勤務 柔道整復師専科教員取得 非常勤講師3年				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、患者に正確な知識・根拠に基づいた対応が出来るようにするために、 足関節・足部における損傷の知識を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	2	足関節の解剖	足関節の解剖が説明できる。
2	10	8	2	足関節の機能	足関節の機能が説明できる。
3	10	15	2	下腿遠位部骨折	下腿遠位部骨折・脱臼骨折の概要が説明できる。
4	11	5	2	下腿遠位部骨折	発生機序・分類が説明できる。
5	11	12	2	足根骨骨折	足根骨骨折の概要が説明できる。
6	11	26	2	復習	1～5回までの内容のポイントを整理する。
7	12	3	2	中間テスト対策	中間試験に向け、履修内容を整理する。
8	12	10	2	足関節捻挫	足関節捻挫・周囲の靭帯損傷が説明できる。
9	12	24	2	足関節捻挫の類症鑑別	足関節捻挫の類症疾患が説明できる。
10	1	7	2	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼の分類・易脱臼因子が説明できる。
11	1	14	2	足・趾部の損傷	足・趾部の解剖が理説明できる。
12	1	21	2	足部の骨折	足部の骨折の概要が説明できる。
13	1	28	2	足根・足部の脱臼・軟部組織	足根・足部の脱臼・軟部組織の概要が説明できる。
14	2	4	2	復習	疾患の要点を述べる事ができる。
15	2	18	2	期末テスト対策	期末試験に向け、履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%		柔道整復学・理論編		プロメテウス解剖学 標準整形外科
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)



科目名	臨床柔道整復学11			学年	2 年 10 期生
担当者				期 別	後期
単位数	1 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	整形外科勤務 柔道整復師専科教員取得 非常勤講師3年				
一般目標(GIO)					
本科目は、患者に正確な知識・根拠に基づいた対応を出来るようにするために、 頭・頸部における損傷の知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	3	頭部、顔面部の解剖	頭部、顔面部の解剖が説明できる。
2	10	8	3	頭蓋骨骨折	頭蓋骨骨折の概要が説明できる。
3	10	15	3	頭蓋骨骨折	頭蓋冠骨折と頭蓋底骨折の特徴が説明できる。
4	11	5	3	顔面頭蓋骨折	顔面頭蓋骨折の概要が説明できる。
5	11	12	3	顎関節脱臼	顎関節脱臼の概要が説明できる。
6	11	26	3	復習	1～5回までのポイントを述べる事ができる。
7	12	3	3	中間テスト対策	中間試験に向け、履修内容を整理する。
8	12	10	3	顎関節症	顎関節症の分類が説明できる。
9	12	24	3	頸椎の解剖と機能	頸椎の解剖・機能を説明する事ができる。
10	1	7	3	頸椎骨折	頸椎骨折の概要が説明できる。
11	1	14	3	頸椎脱臼	頸椎骨折の概要が説明できる。
12	1	21	3	頸部の軟部組織損傷	頸部の軟部組織損傷の概要が説明できる。
13	1	28	3	注意すべき疾患	注意すべき疾患の概要が説明できる。
14	2	4	3	復習	疾患の要点を整理する。
15	2	18	3	期末テスト対策	期末試験に向け、履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編		プロメテウス解剖学 標準整形外科	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	臨床柔道整復学12			学年	2年10期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員所有 接骨院開業				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、根拠や理論に基づいた柔道整復学を修得するために、実際の接骨院現場で使う例や国家試験の過去問題から柔道整復学を理解できる。(目的・情報・知識・手順から理解して身につける。)</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	1	関節可動域表示ならびに測定法	基本肢位からの動きの名称を説明できる。
2	10	11	1	上肢測定、手指計測	参考可動域角度、基本軸、移動軸、測定肢位および注意点を説明できる。
3	10	18	1	下肢計測、体幹計測および顎関節計測	参考可動域角度、基本軸、移動軸、測定肢位および注意点を説明できる。
4	10	25	1	復習	第1回から3回の復習として整理をし、国家試験問題と関係づける事ができる。
5	11	8	1	関節可動域参考値一覧表、全身関節弛緩テスト	参考関節可動域の説明と全身関節弛緩テストの説明ができる。
6	11	15	1	復習	第1回から5回の復習として整理をし、国家試験問題と関係づける事ができる。
7	11	29	1	中間テストの解説、臨床徒手検査法	中間テストの問題について解説ができる。
8	12	6	1	臨床徒手検査法の脊柱部	臨床徒手検査法の脊柱部の検査法の意義が説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
9	12	13	1	臨床徒手検査法の胸部・上肢部	臨床徒手検査法の胸部・上肢部の意義を説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
10	12	27	1	臨床徒手検査法の胸部・上肢部	臨床徒手検査法の胸部・上肢部の意義を説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
11	1	10	1	臨床徒手検査法の股関節・下肢部	臨床徒手検査法の股関節・下肢部の意義を説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
12	1	17	1	臨床徒手検査法の股関節・下肢部	臨床徒手検査法の股関節・下肢部の意義を説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
13	1	31	1	臨床徒手検査法の神経・血管	臨床徒手検査法の神経・血管の意義を説明できる。国家試験問題と関係づける事ができる。
14	2	7	1	復習	第1回から13回の復習として整理し、国家試験問題と関係づける事ができる。
15	2	14	1	復習	第1回から14回の復習として整理し、国家試験問題と関係づける事ができる。
評価基準			教科書		参考書
中間テスト	30%		柔道整復学理論・理論編 改訂第6版		柔道整復師国家試験問題
期末テスト	70%		(南江堂)		(公益財団法人柔道整復研修試験財団ホームページ)
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用8	学年	2 年 10 期生
担当者		期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

## 一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するためにその修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法を身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	2	肩腱板損傷	肩腱板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	9	2	肩腱板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
3	10	16	2	上腕二頭筋腱損傷	上腕二頭筋腱損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
4	10	23	2	上腕二頭筋腱損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	11	6	2	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
6	11	13	2	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
7	12	4	2	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
8	12	11	2	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
9	12	25	2	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
10	1	8	2	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
11	1	15	2	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
12	1	22	2	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
13	1	29	2	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
14	2	5	2	各傷病のまとめ	診察及び整復・検査方法が説明できる。
15	2	12	2	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査および固定方法が説明できる。

## 評価基準

## 教科書

## 参考書

実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院 整形外科学診断ガイド 文光堂 機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW
口述	10%		
平常点	10%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用9	学年	2年10期生
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

## 一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するためにその修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	3	ハムSTRING損傷	ハムSTRING損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	9	3	ハムSTRING損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
3	10	16	3	ハムSTRING損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
4	10	23	3	大腿四頭筋打撲	大腿四頭筋打撲の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
5	11	6	3	大腿四頭筋打撲	診察法・検査法・評価法を修得できる。
6	11	13	3	大腿四頭筋打撲	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
7	12	4	3	膝関節側副靭帯損傷	膝関節側副靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
8	12	11	3	膝関節側副靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
9	12	25	3	膝関節側副靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
10	1	8	3	膝関節十字靭帯損傷	膝関節十字靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
11	1	15	3	膝関節十字靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
12	1	22	3	膝関節十字靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
13	1	29	3	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
14	2	5	3	膝関節半月板損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
15	2	12	3	膝関節半月板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
評価基準				教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂		プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院	
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂		整形外科学診断ガイド 文光堂	
平常点	10%			機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW	
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	柔道整復実技応用10		学年	2年10期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	実技	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用10において臨床上起こりうる事象と照合しそれに対して応用実技を行う。				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、認定実技審査対応の為、共通認識と技術の向上を目的とする。</p> <p>また、その中でも下肢の軟部組織損傷の理解とそれに応じた検査法を修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	3	下腿三頭筋・アキレス腱の解剖	解剖学教科書を用いて説明できる。
2	10	7	3	柔道整復学の基礎知識	柔道整復学教科書を用いて特徴を説明できる。
3	10	21	3	検査の確認	実際に実技を行いながら説明できる。
4	10	28	3	テクニックを含む徒手検査	検査の実施強度や注意点を説明できる。
5	11	11	3	併発損傷、陰性所見の捉え方	他疾患が隠れてないかを確認し説明できる。
6	11	18	3	足関節の解剖	解剖学教科書を用いて説明できる。
7	12	25	3	柔道整復学の基礎知識	柔道整復学教科書を用いて特徴を説明できる。
8	12	2	3	検査の確認①	実際に実技を行いながら説明できる。
9	12	9	3	検査の確認②	検査の種類、操作を説明できる。
10	12	16	3	テクニックを含む徒手検査①	検査の実施強度や注意点を説明できる。
11	1	23	3	テクニックを含む徒手検査②	種類別に説明できる。
12	1	20	3	併発損傷、陰性所見の捉え方	他疾患が隠れてないかを確認し説明できる。
13	1	27	3	検査後の注意点	常に罹患であることを説明できる。
14	2	3	3	基礎知識の確認	知識を柔道整復学・解剖学の教科書と比較させる。
15	2	10	3	1～14項目の復習	実際に実技を行わせ学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	80%	柔道整復学・理論編		実技レジュメ	
実習態度	20%	柔道整復学・実技編			
	%	解剖学			
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	柔道整復実技応用11		学年	2年10期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	実技	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用11において臨床上起こりうる事象と照合しそれに対して実技応用を行う。				
一般目標(GIO)					
<p>本科目は、認定実技審査対応の為、共通認識と技術の向上を目的とする。</p> <p>また、その中でも下肢の軟部組織損傷の理解とそれに応じた正しい固定法を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	3	3	アキレス腱断裂(クラーメル固定)	使用材料の選別と手順を説明できる。
2	10	10	3	アキレス腱断裂(クラーメル固定)	固定方法の実技を行い説明できる。
3	10	17	3	アキレス腱断裂(クラーメル固定)	反復練習で出てくる間違いを指摘できる。
4	10	24	3	足関節外側側副靭帯損傷①	局所副子固定について説明できる。
5	10	31	3	足関節外側側副靭帯損傷①	使用材料の選別と手順を説明できる。
6	11	7	3	足関節外側側副靭帯損傷①	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘させる。
7	11	14	3	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポート固定について材料・用途を説明できる。
8	11	28	3	膝関節内側側副靭帯損傷	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘させる。
9	12	5	3	足関節外側側副靭帯損傷②	バスケットウィーブについて材料・用途を説明できる。
10	12	12	3	足関節外側側副靭帯損傷②	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘させる。
11	12	19	3	足関節外側側副靭帯損傷③	フィギュアエイト・ヒールロックについて説明できる。
12	1	9	3	足関節外側側副靭帯損傷③	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘させる。
13	1	16	3	1～12項の復習	認定実技審査の内容と比較させる。
14	1	23	3	1～12項の復習	ウィークポイントを洗い出して、それを応用する。
15	1	30	3	1～14項の復習	全項目を復習し学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	80%		柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編		実技レジュメ
実習態度	20%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)